

## Ⅵ 細菌病理科業務及び調査研究事項

### 1 細菌病理検査業務成績 (昭和39年)

検査項目	種目	件数
赤痢糞便検査	培養	1,038
チフス・パラチフス菌検査	培養	826
結核菌検査	鏡検	101
	培養	164
	薬剤耐性検査	19
	補体結合反応	3,768
梅毒血清学的検査	緒方凝集法	3,768
	ガラス板法	3,768
	鏡検	7
淋菌検査	培養	20
血液検査	ウィダール反応	48
食中毒検査	培養	47
血液型	A B O 式	1,514
食品検査	培養	13
一般検査	培養	31
薬剤耐性	ディスク法	16
臨床検査	血清検査	20
	尿検査	11
	糞便検査	8

### パラチフスBの多発例

小沢 尚夫 有泉 昇 雨宮 英子 窪田 知子

昭和39年4月上旬から富士吉田市富士見町、宮下町を中心に小学生や幼児35名(当時)の発熱患者が続発したため当科は県予防課の要請により、同年4月28日現地に赴いた。その間、その診断治療に当った現地医師間ではウイルス性感染症と細菌性感染症との二つの臨床所見に分れ物議を醸していた。そこで県予防課、吉田保健所、当衛生研究所、地元医師会等の関係者が協議の結果、細菌、ウイルスの双方の分離同定をすることにした。取敢ず当科では入院患者2名の採便と採血を実施し、細菌の分離同定に供するために持参した。このうち1名の糞便からパラチフスB菌が分離された。然しこれが多発例の原因菌であるかどうか疑問であったので、更に5月1日の協議に基づいて、市内に散在する患家を訪れ、患者23名の採血と採便を実施し、これを折半して国立予防衛生研究所芦原博士にウイルスの分離同定を依頼し、残部を当科に

持参し、パラチフスB菌の分離同定に供したのである。上記検索によつて23名中の糞便から8例のパラチフスB菌を索出し、血液の胆汁培養から1例の同菌を分離し得た。尚ウィダール反応は160倍を越えたものはなかった。この患者は小学生6名、高校生1名、幼児(3才)1名大人1名で、うち2名が同一家族だった。更に吉田保健所の協力を得て、その患者の家族同居者等の検便を行ったところ、保菌者23名に達した。

分離したパラチフスB菌の生物学的性状は例外なく次の通りである。

硫化水素	陰	性
運動	あり	
グラム染色	陰	性
I P A	陰	性
V P	陰	性

インドール 陰性  
クエン酸 陽性  
α-酒石酸 陰性

その後の検索は吉田保健所で進めたのであったが、同保健所管内ではパラチフスの発生は31年から35年までなく36年河口湖町、37年富士吉田市で各1名ずつ発生しているだけなので、この多発例は防疫担当者を始め、市民に

大きなショックを与えた。それがあらぬか国立予防衛生研究所より分離株送附の要望があり、同所へ全分離株を送附した。その後、同所からファージ型別の結果、全分離株共にパラチフスB菌、I 正常型であるとの通知を得た。又上記ウイルスに関する成績は原因と思われるウイルスは分離されなかった旨の果宛の通報を得た。

## 大腸菌の薬剤耐性試験

有 泉 昇

近時病原細菌の薬剤耐性菌が増加の一途をたどり、吾々の日常業務に耐性検査は欠くことの出来ないもの一つになったが、患者に限らず一般健康者の耐性を獲得している大腸菌はどの程度のものか調べて見たところ、次のような成績を得た。

検査法 健康者糞便を「デソキシコレート寒天」に分離培養し大腸菌群と思われる集落から釣菌して、TSIに移し、この所見において大腸菌群の性状に一致するものを検査の対象とした。

測定薬剤 SM, CM, TC の三剤平板希釈法によつた。

ない。

(そのII)

某町婦人団体糞便 (24例)

SM	CM	TC
50γ.....1	6.25γ.....1	1.56γ.....6
1.56γ.....6	3.13γ.....18	0.78γ.....18
0.78γ.....14	1.56γ.....5	
0.39γ.....3		

SMに50γ耐性を示すもの1例を見たが、これは現在健康であるかあるいは薬剤使用中であるか調べていない。

成績 (そのI)

市内某中学校生徒糞便 (21例)

SM	CM	TC
12.5γ.....2	12.5γ.....2	6.25γ.....2
6.25γ.....19	6.25γ.....12	3.13γ.....13
		1.56γ.....6

耐性を示した薬剤及び濃度における例数を示したものである。

各個人の現在までの治療の経験等については調べ

(そのIII)

某町内団体糞便 (21例)

SM	CM	TC
50γ.....1	3.13γ.....13	50γ.....1
1.56γ.....6	1.56γ.....4	6.25γ.....2
0.78γ.....14	0.78γ.....4	3.13γ.....6
		1.56γ.....12

SM50r耐性とTCのそれとは同一人のものである。